

令和6年能登半島地震 災害対策ニュース

全木協の建設戸数、450戸超の見込み

石川県との災害協定締結へ

石川県における応急仮設住宅の建設は、2月8日時点で3市4町、2156戸が着工されています。最大の建設戸数は輪島市で923戸、次いで珠洲市の456戸、穴水町の256戸、能登町の210戸となっています。完成戸数は珠洲市が40戸、輪島市が18戸となっています。

全木協の建設戸数見込みは、2月13日時点で、①輪島市の町野（まちな）グラウンドゴルフ場で260戸規模、②鳳至（ふげし）小学校グラウンドで100戸規模、③南志見（なじみ）多目的グラウンドで100戸規模、④珠洲市の旧上戸（じょうご）保育所グラウンドで10戸規模となっています。

応急仮設木造住宅の仕様書、平面図や立面図（仮設住宅の平屋及び2階建て、40㎡の談話室、90㎡の集会所、300㎡のサポートセンター）については、石川県との調整はほぼ終了し、現在は各仮設団地の配置計画図の確認の最終局面となっています。

こうした状況を受け、工程表の作成にも取り掛かっており、資材等の調達状況が確認され次第、段階的に着工していく予定にしています。

現時点においては、第1陣として2月下旬から3月上旬の着工、大工工事は3月上旬から中旬を見込んでいます。

工程表の作成状況を踏まえ、各県連・組合には改めて就労者募集等を案内させていただきます。

《石川県と災害協定締結へ》

石川県と全木協の「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」ですが、1月18日付で締結される見込みとなりました。

これにより、41都道府県での災害協定の締結となり、年度内に予定されている、岩手県と栃木県との締結を加えると43都道府県となります。

全木協 応急仮設木造住宅の建設現場一覧

